



令和2年2月26日

保護者各位

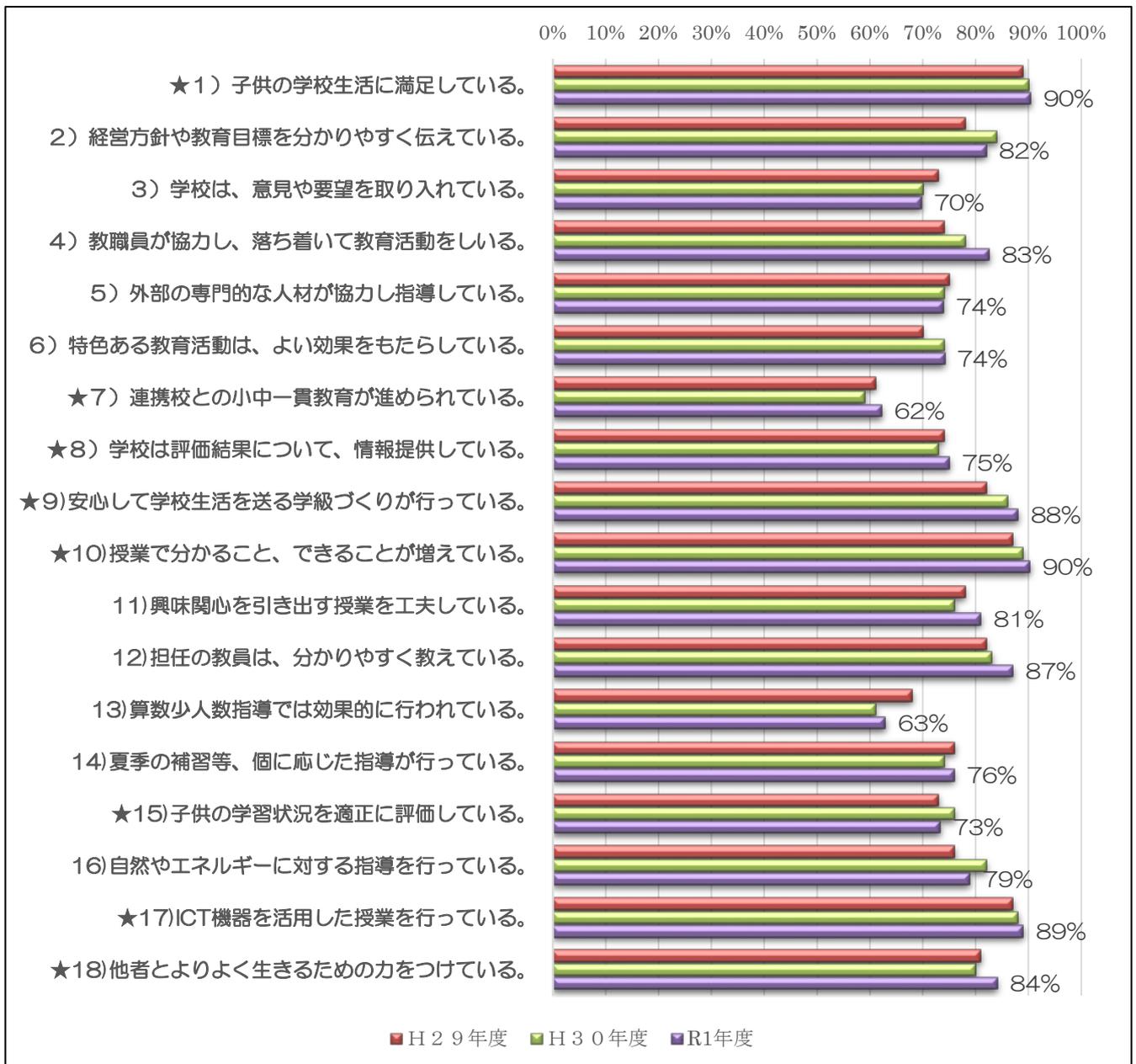
杉並区立西田小学校

校長 鈴木 朝代

### 「令和元年度杉並区教育調査」および 「西田小よりよい学校づくりアンケート」集計結果について

今年度実施した、杉並区教育調査と本校の「よりよい学校づくりアンケート」の集計結果について学校運営協議会でも話題とし、対応策について検討しましたことをご報告します。アンケートにつきましては、趣旨をご理解いただき、ご協力くださりありがとうございました。各項目について出された結果を受け止め、来年度の学校計画（教育課程）作成の資料とさせていただきます。

#### アンケート結果（保護者の肯定率）



★のマークの項目は区の教育調査の項目です。

\*裏面は結果の考察が記載されています。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

★19)体力や食、生活習慣等健康的な力が育まれている。



20)家庭においても健康的な生活をしている。



21)体力が高まるよう授業、休み時間などに工夫してい...



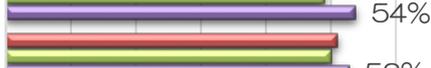
22)安全な登校など、きまりを守って生活している。



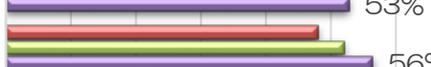
23)子供は、毎日、楽しく学校へ通っている。



24)いじめや不登校など、未然防止や早期発見など解決...



25)子供が悩んだとき、教職員が関わり支援している。



★26)学校は特別支援教育等の情報提供している。



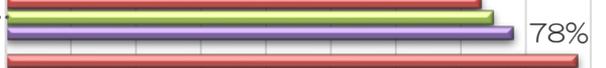
★27)家庭や地域と連携・協力して教育活動を行ってい...



28)社会貢献活動や体験活動で地域連携に努めている。



29)学校支援本部と連携し行事・教育活動・地域と関...



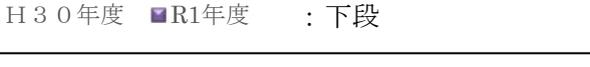
30)地震や火災などを予測し、回避する力が育まれてい...



31)学校公開日や学校便り等で教育活動を伝えている。



32)施設整備、安全で清潔な環境づくりに努めている。



■ H29年度 ■ H30年度 ■ R1年度 : 下段

### 5・6年児童の肯定率

※すべて区の教育調査の項目です。

0% 20% 40% 60% 80% 100%

①クラスが分かり合い、協力するよう指導している。



②得意を伸ばし苦手を少なくする個別の指導がある。



③授業で、分かることやできることが増えている。



④先生は、自分を誉め間違えたところを教えてくれる。



⑤授業で電子黒板やデジタル教科書を活用している。



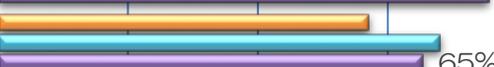
⑥既習事項やこれからの学習のつながりを説明している。



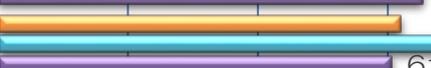
⑦道徳では他人とよりよく生きる大切さを話し合っている。



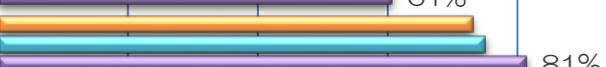
⑧先生は、健康な生活を送ることを教えている。



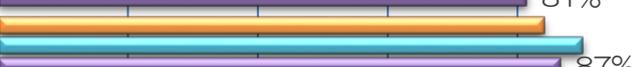
⑨地域との協働し授業や行事をしている。



⑩悩んだ時、学校に相談できる大人がいる。

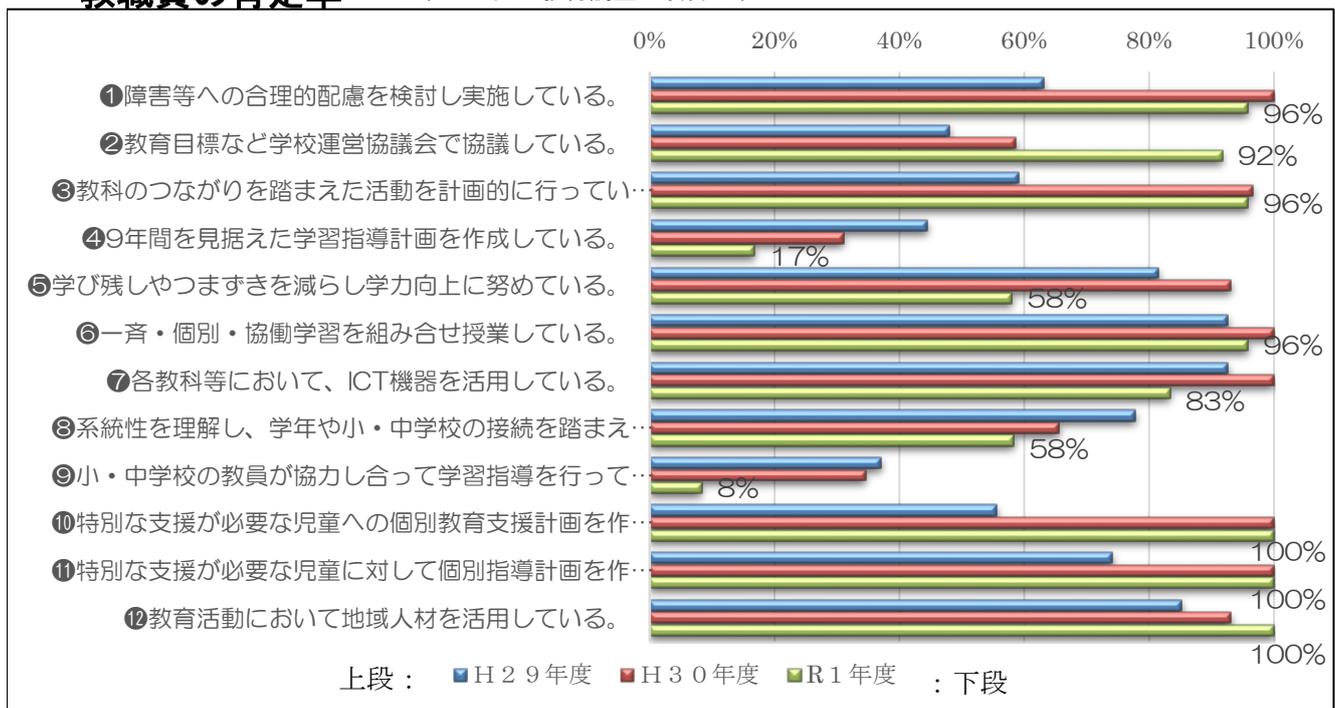


⑪地震や火事等を予測し、避けるために学んでいる。



上段： ■ H29年度 ■ H30年度 ■ R1年度 : 下段

## 教職員の肯定率 ※すべて区の教育調査の項目です



「杉並区教育調査」ならびに「よりよい学校づくりアンケート」集計結果を受けて今回の保護者の提出率は、全児童数に対して80.4%で、昨年度より5%増加しました。3年保護者の回収率は87.1%で一番高く、次いで6年86.1%となりました。ご協力に感謝いたします。

### ■ 学校経営について

子供の学校生活に満足しているという保護者が90%になり、非常に高い肯定率となっています。No.2の経営方針も80%を超え、ユネスコスクールの取組が保護者に理解されている結果と思われます。No.4の教員間の協力はNo.9の学級経営と合わせ、学校の指導体制が評価されたと考えます。

### <小中一貫教育について>

小中一貫教育については、上のグラフからは分かりませんが6年と2年の保護者の肯定率が約66%と高く、他学年とは6%の差があります。小中連携や幼保小連携の活動に、実際に関わっている学年によって差が出た結果と考えます。小中連携については、中学校と連携した「命の授業」や「いじめ」の授業など行うとともに、「9年ひとつなぎ 小中連携通信」で発信しているように、3校の教員が協力し合って授業研究を行うなど一歩深めた取組を始めています。しかしながら、指導内容の系統性や子供の能力をさらに引き出す連携ができていないかについては、教員にとってもまだまだ難しさを感じているところで、教員の意識調査⑨では8%まで落ち込みました。学校運営協議会からは、「高校受験を控えた中学校とは制度的に違う、過度の期待はできないのではないか」という意見も出されました。一方で、学識経験者からは、小中学校間の文化の違いについて、ご自分の経験からの発言が出されたとともに、可能な努力をして成果を上げている例も紹介されました。教員の肯定率が減少した理由を深堀して課題を明らかにする必要性が指摘されました。



教員の意識調査No.②の「学校運営協議会との関わり」については92%まで上昇しました。教員間との意見交換を継続的に行ってきた結果だと考えます。

### ■ 学習指導について

No.10の学習成果の実感については、1～3年は95～93%、4～6年は85%前後の結果となり、全体では90%の肯定率になりました。No.11の授業の工夫も年々上がっています。児童のアンケート結果No.①の「学び合い」についてや、No.



③の「学習成果の実感」を見ると、どちらも 85%の肯定率となりました。また、No.⑥の「既習事項の確認や学習のつながり」については、総合的な学習の時間で学んでいる内容と各教科で学習していることを関連させて課題追究が行われていることが、児童にも意識化された結果と考えます。教員へのアンケート結果No.③でも、カリキュラム・マネジメントに関する項目が 96%となりました。ユネスコスクールの授業改善を通して、教科等横断的な指導が教員の中に認識された結果と考えます。

#### <個別指導について>

保護者No.14の肯定率は67%でしたが、児童のNo.②は32%に落ち込みました。合わせて教員のNo.⑤も58%に減少したことを受け、学校運営協議会では個別指導の必要性について話題になりました。どうしても授業の中で個別指導することが難しいことから、以前も朝早く登校させて指導することも学級によっては行ってきましたが、学校として来年度より個別指導の時間を毎週水曜日に設定することにしました。来年度の変更点については、3月の保護者会の前にお話する時間を取りたいと思います。

#### <ICTの活用について>

ICT公開等で日頃の学習の様子をご覧になっている通り、日常的にICT機器を使った授業を取り入れています。保護者アンケートNo.17では、肯定率89%、児童のNo.⑤は92%でした。ESD子供報告会などでもICT機器を使いこなしてプレゼンをする姿が見られたともいます。また「未来の学校」では、ICT支援員が関わった授業の工夫についての発表もご覧いただきました。今後もICT機器を有効活用した授業改善に努力していきます。



#### ■ 体力の向上・休み時間の活用について



体力の向上、休み時間の工夫については、75%付近で留まっています。体力テストの結果を踏まえての対応よりも、体を動かす休み時間や放課後の活用などが、昨年度同様、課題となっています。最近子供と一緒に遊ぶ教員の姿も増えてきているとともに、運動委員会の児童が主体的に体力向上プロジェクトを実施するなど、学校運営に子供たちが関わってくるようになってきました。体力向上については以前から学校運営協議会で話題となっており、今回この結果を受けて、同窓会長の中澤委員から、同窓会で人的対置を工夫し、朝遊びができるように協力したいという申し出をいただきました。

#### ■ 子供の学校生活（教育相談・いじめ・不登校）

保護者No.24のいじめや不登校については、依然として低い肯定率となりました。内訳は、肯定的が54%に対して、「どちらでもない」21%、否定的4%、「分からない」22%となります。この結果の背景がいじめなのか不登校なのかは不明ですが、不登校児童については、保護者の皆様には、学校の対応が見えないと思う要因ではないかと考えます。児童No.⑩の「悩んだ時の相談相手がいる」については81%まで上昇しました。今後も、いじめ防止のアンケートの実施、スクールカウンセラーとの面接などを学校として充実させ、現在行っている活動をさらに充実させていきます。保護者の方も気がなったことがありましたら遠慮なく、担任、学年主任、管理職へご連絡ください。

#### ■ 特別支援教育等の情報提供について

保護者No.⑫の特別支援教育への情報提供は3年前からは8%の上昇となり肯定率56%になりました。特に、昨年度12%であった否定的な割合が8%に減少しました。昨年度同様、今年度も「にした教室」の巡回指導教員が「にした教室」の活動のねらいや様子などを、土曜学校公開にあわせて紹介しました。保護者も30人程度参加していただきました。最近「にした教室」に通う児童も徐々に増え、良さや効果の認識・理解が広まっている結果と考えます。さらに、年度当初の説明や、「にした教室」以外に、区の取組や情報も積極的に保護者の方に発信していきます。